



報道関係者各位

【2026 ミラノ・コルティナ五輪に関する全国アンケート調査結果】

感動シーン 1位「りくりゅうペア金メダル」 2位「平野歩夢 7位入賞」

競技満足度 1位は2大会ぶりにフィギュアスケート（観戦者内満足率 87.1%）

～大会成功評価 85.6%、日本代表の成績に満足 84.8%～

産業能率大学スポーツマネジメント研究所（所長：中川直樹 情報マネジメント学部教授）は、2026 ミラノ・コルティナ五輪の閉幕直後に、最も感動したシーンをはじめ、日本代表選手や観戦競技に関するアンケートを実施しました。調査は開幕前に行った1万人アンケートの追跡調査として、全国の1,000人に対してインターネットを通して実施しました。

1. 最も感動したシーン

順位	選手	競技	種目	競技成績	票数
1位	三浦 璃来／木原 龍一	フィギュアスケート	ペア	金メダル	339票
2位	平野 歩夢	スノーボード	男子ハーフパイプ	7位入賞	39票
3位	坂本 花織	フィギュアスケート	女子シングル	銀メダル	35票

2. 日本代表選手に関する調査

順位	観戦率 ※1		観戦者内満足率		知名度アップ ^o	
1位	坂本花織 (フィギュア)	46.3%	木原龍一 (フィギュア)	94.0%	三浦璃来 (フィギュア)	+38.4
2位	木原龍一 (フィギュア)	43.3%	三浦璃来 (フィギュア)	93.7%	木原龍一 (フィギュア)	+37.2
3位	三浦璃来 (フィギュア)	42.6%	村瀬心花 (スノーボード)	81.3%	中井亜美 (フィギュア)	+36.6

※1 観戦率：ニュースやダイジェストを含め競技を視聴した率

3. 競技に関する調査

順位	観戦率		観戦者内満足率		最も生観戦したい	
1位	フィギュアスケート	55.6%	フィギュアスケート	87.1%	フィギュアスケート	28.9%
2位	スノーボード	40.2%	スノーボード	71.4%	スノーボード	13.1%
3位	スキージャンプ	37.0%	フリースタイルスキー	55.7%	スキージャンプ	5.8%

【参考】冬季五輪直近3大会の競技満足度※2比較（本研究所調査）

順位	2026 ミラノ・コルティナ		2022 北京		2018 平昌	
1位	フィギュアスケート	48.4%	カーリング	43.4%	フィギュアスケート	60.7%
2位	スノーボード	28.7%	スノーボード	40.9%	スピードスケート	59.1%
3位	スキージャンプ	19.5%	フィギュアスケート	40.2%	カーリング	55.9%

※2 競技満足度：全回答者（N=1,000）に占める「視聴して良かった競技」の回答率

4. 意識調査

質問	はい
今回の2026 ミラノ・コルティナ五輪は成功だったと思う	85.6%
日本代表の成績に満足している（冬季五輪最多メダル数24個、金メダル数最多タイ5個）	84.8%



1. 最も感動したシーン

最も感動したシーンについて、**8位入賞以上の48件**（金5、銀7、銅12、4位6、5位1、6位8、7位4、8位5）を対象に選んでもらいました。1位は圧倒的な票数で「りくりゅうペア」。2位の平野歩夢選手をはじめ、金メダル以外のシーンも複数選ばれました。投票の決め手として、ペアや団体種目の結束力、選手の人間性を挙げる回答者もいました。

順位	選手（競技・種目）＜成績＞	票数	投票理由 抜粋
1位	三浦 璃来／木原 龍一 （フィギュアスケート・ペア） ＜金メダル＞	339	<ul style="list-style-type: none"> ・ショート5位からの奇跡。日本のペアが金メダルを取る日がついにきた！フリーの演技に涙が止まらなかった（茨城県 50代女性） ・ショートのリフトの失敗で落ち込んだ翌日にフリーで完ぺきな演技を世界最高得点で踊ったのがすごいと思ったから。（愛知県 50代女性） ・どんな苦しい練習を積み重ねてきたのかと思うと同時に、美しい演技に魅了されて涙がでた。（東京都 60代女性）
2位	平野 歩夢 （スノーボード・男子ハーフパイプ） ＜7位入賞＞	39	<ul style="list-style-type: none"> ・直前に大変な怪我をしたのにあの場面に立ち、素晴らしいパフォーマンスをして、競技後のコメントも謙虚。（千葉県 60代男性） ・大怪我をしている中で素晴らしい演技をした技術力とメンタルの強さにとても感動して心打たれた。（東京都 30代女性）
3位	坂本 花織 （フィギュアスケート・女子シングル） ＜銀メダル＞	35	<ul style="list-style-type: none"> ・前の選手が凄く良い演技をして、こちらまで緊張が伝わるくらいプレッシャーも大きかったのに、最後まで立派に頑張った（大阪府 30代女性） ・金を取れなくて悔しさで流す涙も美しかった（大阪府 40代女性） ・引退するまでの道のりが素晴らしかったです！（東京都 30代男性）
4位	坂本花織、鍵山優真、佐藤駿、三浦璃来/木原龍一、吉田唄菜/森田真沙也 （フィギュアスケート・団体） ＜銀メダル＞	27	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで応援している姿に感動した（三重県 50代男性） ・まさにチーム一丸！（東京都 50代男性） ・良いパフォーマンスで団結感もあった（埼玉県 40代女性） ・演技はもちろん人間性が素晴らしい（大阪府 20代女性） ・選手の仲の良さが見えた（埼玉県 60代女性）
5位	戸塚 優斗 （スノーボード・男子ハーフパイプ） ＜金メダル＞	20	<ul style="list-style-type: none"> ・完璧なトリックで金メダルを獲得したところ（兵庫県 40代男性） ・過去の挫折から立ち向かって成功したから（東京都 20代女性） ・技の完成度に感動した（滋賀県 60代男性）
	中井 亜美 （フィギュアスケート・女子シングル） ＜銅メダル＞	20	<ul style="list-style-type: none"> ・人間離れしたすごいショーを見た（東京都 30代女性） ・世界に素晴らしい演技をしてくれた（滋賀県 30代男性） ・17歳とは思えなかった（東京都 40代男性）
7位	丸山希、小林陵侑、高梨沙羅、二階堂蓮 （スキージャンプ・混合団体） ＜銅メダル＞	15	<ul style="list-style-type: none"> ・高梨選手の前回の失格など、背景を考えると涙を流さずにはいられなかった（栃木県 30代男性） ・今までの苦勞が想像できたから（東京都 60代男性） ・チームの結束力がよかった（福島県 50代男性）
8位	村瀬 心桜 （スノーボード・女子ビッグエア） ＜金メダル＞	12	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐく攻めた中でしっかり立って技を決めていた（千葉県 40代男性） ・完璧なエア（東京都 50代男性） ・選手のインタビューを聞いて（愛知県 30代男性）
	高木 美帆 （スピードスケート・女子 500m） ＜銅メダル＞	12	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間スティックに頑張ってきたのがわかるから（東京都 60代女性） ・500mでメダルがとれて本人も喜んでた（北海道 50代女性） ・前々から応援していたので感動しました（埼玉県 20代男性）
	高木 美帆 （スピードスケート・女子 1500m） ＜6位入賞＞	12	<ul style="list-style-type: none"> ・得意とする1500mで思った結果は出なかったが、精一杯やりきって姉の菜那さんに抱きしめられた（北海道 40代女性） ・競技終了後の涙に感動した（神奈川県 50代男性）



2. 日本代表選手に関する調査

全 121 選手を分析対象として実施しました。指標名と調査内容・集計方法の対応は下表の通りです。「競技を視聴」にはニュースやダイジェストでの視聴も含まれます。

指標名	質問番号	調査内容・集計方法
観戦率	Q1	競技を視聴した選手を選択。(複数選択可) 分母は全体 N=1,000
観戦者内満足率	Q2	Q1 で選択した選手の中から、活躍に満足している選手を選択。(複数選択可)
大会後知名度	Q3	名前を知っている選手を全員選択。(複数選択可)
知名度アップ ^o	-	「大会後知名度」から「大会前知名度」(大会前調査 Q1) を引き算して算出。

2-1. 観戦率 25%以上

1 位は前回 2022 北京大会の銅メダリストで、前大会に引き続き団体戦にも出場した坂本花織選手でした。4 位の高木美帆選手、5 位の平野歩夢選手、7 位の高梨沙羅選手、8 位の鍵山優真選手、11 位の小林陵侑選手も、「注目率」(大会前調査 N=10,000) が 20%を超えていた注目度の高い選手でした。

一方で、2 位・3 位の「りくりゅうペア」こと木原龍一選手と三浦璃来選手、同率 5 位の中井亜美選手、9 位の村瀬心桜選手、10 位の二階堂蓮選手の大会前注目率は 10%未満であり、本大会での活躍により、ニュースやダイジェストを含む放送視聴が高まったと考えられます。

順位	選手(競技) <出場種目最高成績>	観戦率	大会前注目率
1 位	坂本 花織 (フィギュアスケート) <銀メダル>	46.3%	33.6%
2 位	木原 龍一 (フィギュアスケート) <金メダル>	43.3%	9.0%
3 位	三浦 璃来 (フィギュアスケート) <金メダル>	42.6%	8.6%
4 位	高木 美帆 (スピードスケート) <銅メダル>	34.7%	37.0%
5 位	平野 歩夢 (スノーボード) <7 位入賞>	33.8%	35.9%
	中井 亜美 (フィギュアスケート) <銅メダル>	33.8%	5.9%
7 位	高梨 沙羅 (スキージャンプ) <銅メダル>	32.5%	30.5%
8 位	鍵山 優真 (フィギュアスケート) <銀メダル>	29.6%	20.6%
9 位	村瀬 心桜 (スノーボード) <金メダル>	28.3%	7.0%
10 位	二階堂 蓮 (スキージャンプ) <銀メダル>	26.0%	3.3%
11 位	小林 陵侑 (スキージャンプ) <銅メダル>	25.7%	30.4%

2-2. 観戦者内満足率 70%以上

観戦した人の中で何人が満足したかを「観戦者内満足率」として算出しました。なお、観戦人数の下限は 10 人です。

りくりゅうペアが圧巻の 90%超、スノーボード・女子ビッグエア金メダリストの村瀬心桜選手が 81.3%で続きました。13 位の古野慧選手はメダルに一步届かず放送が少なかったものの、観戦した人はそのパフォーマンスに満足を示したといえます。

順位	選手(競技) <出場種目最高成績>	観戦者内満足率	観戦人数	満足人数
1 位	木原 龍一 (フィギュアスケート) <金メダル>	94.0%	433	407
2 位	三浦 璃来 (フィギュアスケート) <金メダル>	93.7%	426	399
3 位	村瀬 心桜 (スノーボード) <金メダル>	81.3%	283	230
4 位	坂本 花織 (フィギュアスケート) <銀メダル>	79.3%	463	367



5位	木村 葵来 (スノーボード) <金メダル>	77.0%	100	77
6位	中井 亜美 (フィギュアスケート) <銅メダル>	76.9%	338	260
7位	深田 茉莉 (スノーボード) <金メダル>	76.2%	126	96
8位	佐藤 駿 (フィギュアスケート) <銀メダル>	74.9%	179	134
9位	鍵山 優真 (フィギュアスケート) <銀メダル>	74.3%	296	220
10位	二階堂 蓮 (スキージャンプ) <銀メダル>	74.2%	260	193
11位	戸塚 優斗 (スノーボード) <金メダル>	72.8%	195	142
12位	堀島 行真 (フリースタイルスキー) <銀メダル>	72.6%	113	82
13位	古野 慧 (フリースタイルスキー) <4位入賞>	72.2%	18	13
14位	高木 美帆 (スピードスケート) <銅メダル>	72.0%	347	250

2-3. 知名度アップ 15pt 以上

「大会前知名度」(N=10,000) から「大会後知名度」(N=1,000) が何ポイントアップしたのかを算出しました。

30ポイント以上アップしたフィギュアスケートの3選手をはじめ、15ポイント以上アップした選手はほぼ全員が「メダリスト」でした。期待を上回る活躍によってメダルを獲得し、メディアでも大きく取り上げられた選手の知名度が急上昇しました。

知名度アップ6位の千葉百音選手は惜しくもメダルには届きませんでした。次ページ以降の【競技に関する調査】で触れるように、今大会はフィギュアスケートの観戦率と満足度が高く、その影響もあって代表選手全員の認知が進みました。

順位	選手(競技) <出場種目最高成績>	知名度アップ	大会前知名度	大会後知名度
1位	三浦 璃来 (フィギュアスケート) <金メダル>	+38.4	15.6%	54.0%
2位	木原 龍一 (フィギュアスケート) <金メダル>	+37.2	17.2%	54.4%
3位	中井 亜美 (フィギュアスケート) <銅メダル>	+36.6	8.6%	45.2%
4位	二階堂 蓮 (スキージャンプ) <銀メダル>	+27.9	5.2%	33.1%
5位	村瀬 心桜 (スノーボード) <金メダル>	+25.8	11.0%	36.8%
6位	千葉 百音 (フィギュアスケート) <4位入賞>	+21.8	11.6%	33.4%
7位	佐藤 駿 (フィギュアスケート) <銀メダル>	+19.8	6.9%	26.7%
8位	戸塚 優斗 (スノーボード) <金メダル>	+17.7	9.5%	27.2%
9位	坂本 花織 (フィギュアスケート) <銀メダル>	+16.3	47.7%	64.0%
10位	深田 茉莉 (スノーボード) <金メダル>	+15.6	0.9%	16.5%
11位	鍵山 優真 (フィギュアスケート) <銀メダル>	+15.5	33.6%	49.1%
12位	長谷川 帝勝 (スノーボード) <銀メダル>	+15.3	0.9%	16.2%



3. 競技に関する調査

2026 ミラノ・コルティナ五輪で実施された**全 16 競技**を対象に調査を行いました。【日本代表選手に関する調査】同様に算出した、「観戦率」と「観戦者内満足率」の結果を提示したあと、「最も生観戦したい競技」については自由記述の抜粋を交えて報告します。本研究所では冬季五輪に際し、2010 年のバンクーバー大会から継続的に N=1,000 の調査を実施しています。そのため、定点観測である「競技満足度」については、時系列で比較します。

3-1. 観戦率

ボブスレー※3を除く 15 競技で「大会前注目率」を「観戦率」が上回りました。このことから、大会前には関心を示さなかった層が開幕後の盛り上がりに応じて競技観戦を行ったことが窺えます。本大会で日本代表が獲得したメダルの総数は合計 24 個※4ですが、「観戦率」上位 4 位の競技で 22 個を占めます。「大会前注目率」と比較して、相対的に順位が上がった競技は、スノーボード、フリースタイルスキー、アイスホッケー、スケルトンなどでした。

※3 ボブスレー：大会直前に連盟のミスにより日本代表が出場できないことが報じられ、注目度が高まっていたことが理由と考えられます。

※24 個のメダル：多い順に、スノーボード 9 個（金 4、銀 2、銅 3）、フィギュアスケート 6 個（金 1、銀 3、銅 2）、スキージャンプ 4 個（銀 1、銅 3）、スピードスケート 3 個（銅 3）、フリースタイルスキー 2 個（銀 1、銅 1）です。

順位	競技名	観戦率	大会前注目率
1 位	フィギュアスケート	55.6%	28.3%
2 位	スノーボード	40.2%	23.7%
3 位	スキージャンプ	37.0%	26.8%
4 位	スピードスケート	30.6%	19.9%
5 位	カーリング	26.7%	17.5%
6 位	ショートトラックスピードスケート	14.8%	7.7%
7 位	フリースタイルスキー	14.0%	5.7%
8 位	ノルディック複合	11.9%	7.9%
9 位	アイスホッケー	10.8%	4.6%
10 位	アルペンスキー	10.2%	5.9%
11 位	クロスカントリースキー	9.4%	3.3%
12 位	山岳スキー	5.9%	2.4%
13 位	スケルトン	3.6%	1.6%
14 位	ボブスレー	3.0%	3.1%
15 位	バイアスロン	2.7%	1.7%
16 位	リュージュ	2.4%	1.7%

3-2. 観戦者内満足率

観戦率同様に、1 位はフィギュアスケート、2 位はスノーボードでした。3 位には銀と銅、2 個のメダルを獲得したフリースタイルスキーが入りました。4 位のボブスレーは今大会、日本代表選手の出場はなかった競技です。観戦率も 3%（N=30）ながら、観戦した人の中での満足率は高い競技でした。クロスカントリースキーには 4 人の日本代表選手が出場しましたが、同様に 10%未満の観戦率ながら、比較的高い観戦者内満足率を示した競技でした。逆に観戦率が 10%以上（回答人数 100 人以上）ありながら低位に甘んじた競技は、カーリングやアルペンスキーでした。



順位	競技名	観戦者内満足率	観戦人数	満足人数
1位	フィギュアスケート	87.1%	556	484
2位	スノーボード	71.4%	402	287
3位	フリースタイルスキー	55.7%	140	78
4位	ボブスレー	53.3%	30	16
5位	スキージャンプ	52.7%	370	195
6位	スピードスケート	50.7%	306	155
7位	クロスカントリースキー	44.7%	94	42
8位	ショートトラックスピードスケート	43.9%	148	65
9位	ノルディック複合	43.7%	119	52
10位	アイスホッケー	41.7%	108	45
11位	スケルトン	41.7%	36	15
12位	山岳スキー	40.7%	59	24
13位	アルペンスキー	38.2%	102	39
14位	バイアスロン	29.6%	27	8
15位	カーリング	29.6%	267	79
16位	リュージュ	29.2%	24	7

3-3. 最も生観戦したい競技

大会後調査では、「もし世界レベルのウィンタースポーツを現地で生観戦できる機会があるとしたら、最も観戦したい競技を、ミラノ・コルティナ五輪で実施された競技を対象にお選びください。」という設問を設けました。

上位3件は大会前調査の「注目率」、大会後調査の「観戦率」の結果に照らして順当ですが、4位にはアイスホッケーが入りました。アルペンスキーも「観戦率」や「観戦者満足率」との相対比較では上位の7位にランクインしました。

生観戦したい理由としては、「スピード」や「迫力」というワードがよく書かれていました。また、「見やすさ」「わかりやすさ」「試合時間の短さ」もポイントとして挙がり、特に女性からは防寒の観点から「室内」という回答も多く見られました。

順位	競技名	回答率	生観戦したい理由 抜粋
1位	フィギュアスケート	28.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・競技としての魅力はもちろんだが、選手が通り過ぎたり見えなくなったりせず良く見える範囲で競技が行われるから。(岡山県 50代男性) ・やはり、メンタルが、競技にダイレクトに反映されるし、見ていても、綺麗な素人にも分かりやすいから。(千葉県 50代男性) ・以前からフィギュアスケートのファンで、今回の日本勢の活躍をみて、よりファンになり応援したくなったから(愛知県 50代女性) ・りくりゅうベアの金メダルを始め世界に通用するレベルの選手が揃っているから(佐賀県 60代女性)
2位	スノーボード	13.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・若い選手が懸命に戦っていて、又ライバル選手もお互いに称えあい、演技含め全てにおいて感動するから。(大阪府 50代女性) ・見ていて面白いし、今回のオリンピックでたくさんの日本選手が活躍して興味を持ったから(千葉県 50代女性) ・テレビで見てもかっこいいので、現地でも観てみたいと思いました。(東京都 40代女性)



3位	スキージャンプ	5.8%	<ul style="list-style-type: none"> 昔からファンで臨場感を味わいたい。(千葉県 60代男性) どれだけ高くジャンプするのか生で観てみたい(東京都 40代男性) あの高さから100m以上飛ぶ迫力が凄い(静岡県 60代男性) 飛躍の迫力を身近に感じてみたい。(東京都 60代女性)
4位	アイスホッケー	2.8%	<ul style="list-style-type: none"> 迫力のあるスリリングなプレーを見たい(東京都 50代男性) 盛り上がるポイントが多い(東京都 20代男性) エキサイティング(静岡県 50代女性)
5位	スピードスケート	2.1%	<ul style="list-style-type: none"> スピード感があるのと、室内で寒くなさそう(神奈川県 20代女性) スピードを直に体験できるから(京都府 40代女性) 速さを生で観てみたい(兵庫県 40代男性)
6位	カーリング	2.0%	<ul style="list-style-type: none"> 氷上のチェスと呼ばれるように、各チームの頭脳戦・心理戦をLIVEで観戦してみたいから。(広島県 40代女性) どのくらい繊細か、生でみてみたいから(埼玉県 40代女性) チームワークが感動を呼ぶから(愛知県 50代男性)
7位	アルペンスキー	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> やはりウィンタースポーツの花形だから(青森県 60代男性) 自分の目で実際のスピードを見てみたい(茨城県 60代女性) スリルがあって、面白い(愛知県 50代男性)
8位	フリースタイルスキー	0.9%	<ul style="list-style-type: none"> モーグルがカッコイイから(東京都 30代男性) 観ていて楽しそうだから(福島県 50代男性) ダイナミックだから(兵庫県 60代女性)
9位	ショートトラック スピードスケート	0.8%	<ul style="list-style-type: none"> 見ていて興奮しそうだから(三重県 50代男性) 面白い競技だから(埼玉県 60代男性) 室内で寒くなさそう(大阪府 50代女性)
10位	ボブスレー	0.7%	<ul style="list-style-type: none"> スピード感が半端ないから(奈良県 50代男性) 躍動感がありそうだから(山口県 30代女性) 映画の影響(神奈川県 50代女性)
11位	山岳スキー	0.4%	見たことがないから(京都府 50代女性)
	クロスカンリースキー	0.4%	見ていて楽しいから(栃木県 30代男性)
	ノルディック複合	0.4%	2つの競技が見られるから(山口県 60代女性)
	バイアスロン	0.4%	静と動の対比が面白い(石川県 60代男性)
15位	スケルトン	0.3%	早く終わる(北海道 30代女性)
16位	リュージュ	0.2%	楽しかった(東京都 30代男性)

3-4. 競技満足度の時系列比較

本研究が調査を実施した、全5大会の「競技満足度」を比較しました。いずれもN=1,000であり、オリンピック競技に関心が薄い「視聴した競技なし」といった層も分母に含んだので、各競技での「視聴して良かった」の比率になります。

調査を開始してから3大会連続で1位はフィギュアスケートでした。浅田真央選手と羽生結弦選手が活躍していた時代です。2022北京大会においても4個のメダル(銀2、銅2)を獲得しましたが、絶対的王者ジョン・ホワイト選手との一騎打ちを制した平野歩夢選手を擁するスノーボードの躍進と、2018平昌大会で銅メダル、2022北京大会で銀メダルと成長を遂げ、チーム内コミュニケーションが視聴者の強い共感を生んだカーリングに押されて3位となりました。しかし今大会、りくりゅうペアの金字塔を筆頭に、団体・個人でも好成績、さらにはチームワークの良さも好感を呼び、再び首位に返り咲きました。スノーボードは2位をキープし、スキージャンプは2014ソチ大会以来の高順位3位となりました。

順位	2010バンクーバー		2014ソチ		2018平昌		2022北京		2026ミラノ・コルティナ	
	競技名	満足度	競技名	満足度	競技名	満足度	競技名	満足度	競技名	満足度
1位	フィギュアスケート	44.5%	フィギュアスケート	45.1%	フィギュアスケート	60.7%	カーリング	43.4%	フィギュアスケート	48.4%
2位	スピードスケート	27.6%	スキージャンプ	36.7%	スピードスケート	59.1%	スノーボード	40.9%	スノーボード	28.7%
3位	カーリング	23.2%	スノーボード	32.9%	カーリング	55.9%	フィギュアスケート	40.2%	スキージャンプ	19.5%
4位	フリースタイルスキー	14.7%	ノルディック複合	23.1%	スノーボード	34.4%	スキージャンプ	34.2%	スピードスケート	15.5%
5位	ショートトラック	12.3%	フリースタイルスキー	19.7%	ショートトラック	33.2%	スピードスケート	30.5%	カーリング	7.9%
6位	スノーボード	10.7%	カーリング	17.4%	スキージャンプ	27.2%	ノルディック複合	14.3%	フリースタイルスキー	7.8%
7位	スキージャンプ	8.8%	アルペンスキー	17.2%	ノルディック複合	23.3%	ショートトラック	11.3%	ショートトラック	6.5%
8位	アルペンスキー	5.7%	スピードスケート	12.3%	フリースタイルスキー	15.6%	アイスホッケー	8.8%	ノルディック複合	5.2%
9位	アイスホッケー	4.7%	クロスカントリースキー	9.3%	アルペンスキー	12.9%	フリースタイルスキー	6.8%	アイスホッケー	4.5%
10位	ノルディック複合	4.3%	ショートトラック	7.8%	クロスカントリースキー	12.7%	アルペンスキー	5.5%	クロスカントリースキー	4.2%
11位	クロスカントリースキー	4.0%	アイスホッケー	6.5%	アイスホッケー	11.4%	クロスカントリースキー	4.1%	アルペンスキー	3.9%
12位	ボブスレー	2.9%	ボブスレー	3.8%	ボブスレー	5.6%	ボブスレー	1.7%	山岳スキー	2.4%
13位	リュージュ	2.7%	スケルトン	2.8%	スケルトン	5.4%	バイアスロン	1.6%	ボブスレー	1.6%
14位	スケルトン	2.6%	リュージュ		バイアスロン	4.9%	リュージュ	1.1%	スケルトン	1.5%
15位	バイアスロン	1.2%	バイアスロン		2.0%		リュージュ	スケルトン	1.0%	バイアスロン
16位									リュージュ	0.7%



4. 意識調査

大会後調査においても本大会に関連する **10 の意識調査**を実施しました。その結果をもとに 2026 ミラノ・コルティナ五輪の成否を総括し、事前・事後比較ができる質問については比較を行います。そして最後に、現在大きな転換点を迎えている「国民的スポーツ観戦」の可能性と課題について、本研究所のデータをもとに考察します。

4-1. 本大会の評価

夏季と冬季の違いがあるため単純な比較はできませんが、本研究所が 2024 パリ五輪後に実施したアンケートでは、大会成功の肯定率が 55.3%に留まったのに対し、今回は回答者（N = 1,000）の 85.6%が「成功」と回答しました。その背景には日本代表の活躍と過去最高の競技成績があることも大きく関係していると考えられます。

実際には、現地で環境的・経済的コストに対する抗議デモが起き、選手においてもメダルの破損や交通アクセスへの不満が噴出し、日本代表関係ではスキージャンプの男子スーパーチーム（二階堂蓮／小林陵侷）の悪天候による打ち切りに対する疑義も呈されました。しかし、メダル獲得等の明るいニュースにかき消され、否定的なニュースはほとんど注目を集めませんでした。後述しますが、実のところ「視聴した競技はない」の回答率は 33.0%にのぼっています。したがって観戦していない回答者もイメージ先行やメダル数といった情報のみから「成功」「満足」と回答していると考えられます。

大会成功 85.6%、日本代表の成績に満足 84.8%という数値はもちろん素晴らしいことではありますが、光の側面に心を奪われ、影の部分に目が向かなくなる課題も内包しているといえます。

質問	はい
今回の 2026 ミラノ・コルティナ五輪は成功 だったと思う	85.6%
日本代表の成績に満足 している（冬季五輪最多メダル数 24 個、金メダル数最多タイ 5 個）	84.8%

4-2. 大会前後の変化

大会前・大会後の比較を意図した 7 つの質問の結果が下表になります。6 つの質問でプラスの変化が生じました。

今大会は従来の「1 都市 1 開催」からの転機となる大会で、オリンピック史上初めて 2 つの都市名が正式に冠された共催大会となりました。「コルティナ」の認知率は確かに向上はしたものの、10 ポイント未満でした。ネットニュースをはじめ SNS のハッシュタグ等でも「コルティナ」は省略され、「ミラノ五輪」と簡略化されたことが原因と考えられ、課題を残しました。

本大会は「山岳スキー」（スキーマウンテニアリング）が新競技として採用された大会でもあります。ですがこちらも大会後の認知率が 25%未満と奮いませんでした。2024 パリ五輪では単発ながら「ブレイクダンス」（ブレイキン）が採用され国内でも脚光を浴びましたが、山岳スキーは日本代表の出場選手がおらず注目を集めることができませんでした。

ウィンタースポーツの実施意向もプラスの効果が見れましたが、地域的な制約もあり、+4.3 ポイントに留まりました。「みる」（観戦）と「する」（実施）との間に断絶がある点がウィンタースポーツの特徴であり課題でもあるといえます。

メディア関連では、NHK・民放・ニュースサイトや SNS とともに大会前の高い肯定率をさらに上乗せたことが裏付けられ、大会の盛り上がりによってライト層や無関心層が掘り起こされたことが明らかとなりました。

質問	変化	大会前肯定率	大会後肯定率
「コルティナ」地名認知	+9.6	14.6%	24.2%
「山岳スキー」（スキーマウンテニアリング）新競技認知	+13.6	11.2%	24.8%
ウィンタースポーツ実施意向（今シーズン実施済を含む）	+4.3	12.7%	17.0%
NHKで視聴（大会前：予定、大会後：視聴した）	+8.8	31.3%	40.1%
民放中心に視聴（同上）	+5.8	37.3%	43.1%
TVerの見逃し配信を利用（同上）	-2.6	15.7%	13.1%
ニュースサイトや SNS で話題をキャッチ	+7.7	48.5%	56.2%



唯一減少したのが TVer の利用意向です。この結果はスポーツが「リアルタイム視聴」向きのコンテンツであることを改めて示しました。本研究所では現在、2026 WORLD BASEBALL CLASSIC（以下 WBC2026）に関して、「Netflix による独占配信」をテーマに掲げて調査を実施しています。リアルタイム視聴のニーズが高いことを踏まえれば、ライブ配信の独占が大きなビジネスチャンスであることは間違いありません。他方で、これまで地上波テレビ放送が担ってきた「国民的スポーツ行事」の存在が失われるリスクも否定できません。

4-3. 可能性と課題

最終節となる本節では、「フィーバー」と「無関心層の増加」という対照的な両極に着目し、本レポートで提起された可能性と課題について述べます。

本研究所がこれまで実施してきた五輪大会後調査結果との大きな違いは、選手評価が MVP 的な結果にはならず、フィギュアスケートの「りくりゅうペア」こと、三浦璃来選手と木原龍一選手の 2 人に対して向けられた点が挙げられます。ただし、「最も感動したシーン」「満足率」「知名度アップ」のすべてにおいて両名が突出しており、従来以上に一極集中の傾向が顕著にもなりました。そしてそのフィーバーはフィギュアスケート競技全体に波及し、前回 2022 北京大会における満足度では拮抗していたカーリングやスノーボードを再び引き離すインパクトを持ちました。

無関心層の増加に関しては、時系列と世代別の「視聴した競技なし」のデータが端的に物語ります。2018 平昌大会は隣国の韓国での開催、かつ 2 年後に 2020 東京五輪を控えた時期（コロナ禍も未発生）でもあったことから一時的には低下しますが、基本的には上昇トレンドにあることが明白です。2010 バンクーバー大会では「視聴した競技なし」の回答率は 1 割未満でしたが、2026 ミラノ・コルティナ大会では 3 割以上となりました。また本大会の「視聴した競技なし」の比率を世代間で比較すると、60 代では 16.2%に留まりますが、最大の 30 代では 5 割に迫る率を計測し、五輪が全世代共通の「国民的スポーツ行事」とは呼べない状況が近づいていることを予感させます。

冬季五輪	2010 バンクーバー	2014 ソチ	2018 平昌	2022 北京	2026 ミラノ・コルティナ
視聴した競技なし	9.9%	21.0%	15.3%	25.3%	33.0%

2026 世代別	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
視聴した競技なし	44.1%	49.7%	33.6%	26.3%	16.2%

その意味では前節で触れた、WBC2026 の「Netflix による独占配信」はエポックメイキングな出来事といえるでしょう。近い将来、WBC のみならず、サッカー W 杯や五輪に関してもライブ中継を地上波では視聴できない時代がやって来るかもしれません。ただしそれは 20 代・30 代において視聴しない率が 4 割を超えている現状を踏まえれば必然的ともいえます。

早ければ次回の冬季五輪 2030 フランスアルプス大会において、夏季競技の一部が冬季に移行することが IOC（国際オリンピック委員会）において検討されています。地球温暖化や汚染といった環境問題、高騰化と収益化、ドローン撮影や生成 AI のさらなる発展、テレビ離れと世代間ギャップ、スポーツ実施率と健康への影響など、五輪はスポーツのみならず無数の社会課題とリンクしています。本研究所では広い視野に立ち、今後も様々な角度から、調査と分析を行っていきます。



【調査概要】

調査方法：インターネットリサーチ

調査期間：2026年2月24日～25日の2日間

調査対象：日本在住の20歳～69歳の男女1,000人（総務省統計局2025年4月14日公開の「2024年10月1日現在人口推計」の地域・性別・年代構成比に準拠）

調査監修：小野田哲弥（産業能率大学スポーツマネジメント研究所研究員／情報マネジメント学部教授）

調査協力：伊澤祐介・上山真瑛・橋爪駿弥・山崎奏音（小野田ゼミ）

【回答者属性】（N=1,000）

	男性	女性	計
20代	88	82	170
30代	89	86	175
40代	109	105	214
50代	123	120	243
60代	97	101	198
計	506	494	1,000

地方	N	都道府県
1. 北海道	39	北海道
2. 東北	64	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
3. 関東	366	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
4. 甲信越・北陸	61	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県
5. 東海	117	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
6. 近畿	162	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
7. 中国	56	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
8. 四国	26	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
9. 九州・沖縄	109	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合計	1,000	

【産業能率大学】

■ホームページ：<https://www.sanno.ac.jp/>

◆本件に関するご取材・お問い合わせ◆

産業能率大学広報事務局（共同ピーアール内）

Email : sanno-u-pr@kyodo-pr.co.jp

TEL:田ヶ谷（080-1088-7338） 秋山（080-1032-8649）